

議 事 録

公開・一部公開・非公開			非公開 部 分 理 由		
			文書管理責任者	保存期間	30 () ・ 10 ・ 5 ・ 3 ・ 1 ・ 随
				作成日	令和3年12月16日(木)
会長	事務局長	課長補佐	係長	係	記録者所 東御市公共交通活性化協議会
					職・氏名 副主幹 大塚 しのぶ 印

会議等の名称	令和3年度 第3回東御市公共交通活性化協議会	開催日時	令和3年12月16日(木) 午前 10時 00分～ 午前 12時 10分
		場 所	東御市本庁舎 2階全員協議会室
主催者(事務局)	東御市公共交通活性化協議会事務局（商工観光課）	司会者	
出席者	高澤 陽(オンライン)、小林 伸行（代理：美齊津 真崇）、甘利 善一、 小林 靖典（代理：栗林 克明）、塩崎 和男、小林 直樹、阿部 貴代枝、花岡 高、 荻原 輝久、寺嶋 あい子、青木 豊英、倉冨 智彦、関野 エリ、平林 千秋、 峯村 文博（代理：早川 一夫）、清水 初太郎、猿谷 巖、加藤 英人、宮原 剛士、 勝亦 達夫(オンライン)、白鳥 明（代理：山崎 康太郎）、篠原 敏夫（代理：柳沢 精一）、 小林 義忠、松葉 和彦、松井 道夫、瀬下 澄仁 事務局：深井 芳信、山浦 晃隆、荒井 宗武、大塚 しのぶ、小林 裕次、渡邊 亮太、 山邊 修、土屋 岳史		
欠席者	荒井 信吾、清水 孝二、伊藤 隆也、唐澤 光章、小川原 章子、坂口 永一、 両川 博之、中島 健彦、溝端 義三		

議 題	(議題) <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状分析結果について ・ アンケート調査結果について ・ 実証実験について ・ 今後のスケジュールの変更について ・ 地区懇談会の開催について 	(配布資料) 資料No. 1 資料No. 2 資料No. 3、資料No. 4、資料No. 5 資料No. 6
決定事項 <small>(要点を箇条書き)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIオンデマンド交通の運行シミュレーションの実施 ・ 地区ごとの懇談会の2月に開催 	

次回への検討事項		
次回開催	(日時)	年 月 日 午前・後 時 分から (場所)
討議内容及び経過	(発言者名)	(発言内容)
1 開 会	深井事務局長	
2 あいさつ	瀬下会長	
3 協議事項		
(1) 現状分析結果について	コンサルタント	コンサルタントより資料No. 1 及び資料No. 2について説明
(2) アンケート調査結果について		■質疑応答・意見
	花岡委員	令和2年度から利用者が減っているということだが、そこをあまり気にし過ぎてしまうと元の課題を見誤るのではないかと心配している。コロナ禍以前と比べてどの程度下がったのかということ意識しなければならないのではないか。
	コンサルタント	当然ながらコロナ禍前の状況を認識した中で、コロナ禍でどうなったのか、コロナ禍の影響を受けて生活様式がどう変わっていくのかを含め、コロナ禍以前の状況を踏まえた検討と将来的に考えた検討、両面からの検討が必要と考えている。
	花岡委員	コロナ禍前の状況はどのような状況なのか。
	事務局	令和元年度の定時定路線バスの年間利用者数は21,453人で、1日あたり91人。コロナ禍の影響を受けている令和2年度は23,451人で、1日あたり97人とやや増加している。一方デマンド交通は、令和元年度は25,996人で1日あたり100人利用、令和2年度は16,114人で1日当たり67人に減少しており、約4割程度減少している。
	平林委員	RIDE'Nはあまり効果が無かったということだが、計画設計そのものに無理があったのではないか。利便性が向上しない経路だったと思われ、その結果で価値なしとの結論は早計なのではないか。また、アンケートにおけるレッツ号の認知度に関する質問について、記入した本人は利用しておらず、家族が利用しているため認知はしているという可能性もあるのではないか。
	事務局	コロナ禍による影響もあるが、RIDE'Nの利用は1便当たり平均3人弱であり、用意したような大きなバスは必要ではないと分かった。それならば、現存の公共交通を工夫することでカバーすることが可能と判断した。また、認知度に関してであるが、資料No. 2の補足資料85ページに市民アン

	<p>ケートの年齢層別回答状況を掲載しているが、幅広い世代が回答している。</p> <p>最も回答数が多いのは70歳代であり、レッツ号の利用が多い層の回答も多く含まれている。</p>
倉島委員	<p>可能であればRIDE' Nの復権をお願いしたい。東御市のような車社会の地域において実証実験を急にやっても数字は出ないのではないか。定期運行をする安価な路線とし、利便性を高めれば利用者は増えるのではないかと。住民、市民を一番に、大事にするように考えてもらいたい。</p>
事務局	<p>いくつかの公共交通がある中で、よりよい形の公共交通のあり方を構想にまとめるための検討の段階である。財源の問題もあるが、どういう形態が良いのかを、住民との懇談会等を重ね、十分に検討しながら計画を策定していくようにする。</p>
阿部委員	<p>RIDE' Nの運行形態をもう少し検討すべきだったのではないかと思う。普段は家族の送迎で帰宅している孫が、RIDE' Nを利用し、親に迷惑をかけずに帰宅ができて良かったと言っている。需要に応じた便利なデマンドにすれば高齢者にも活用して頂くことができ、車利用が減れば環境にも良い。高齢者がいつまでも車に依存せず済む公共交通になればありがたい。</p>
瀬下会長	<p>意見として承った。</p>
小林委員	<p>小中学生の遠距離通学援助はどのような基準で支給をしているのか。また、アンケート結果において高齢者が移動に不自由していないという意見にも少し違和感がある。割合はどのようになっているのか。</p>
事務局	<p>通学援助についてであるが、学校から地元の学区までの距離によって支給しており、現金支給か定時定路線バス利用の場合は定期券での支給となっている。</p>
コンサルタント	<p>高齢者が外出時の移動に不自由しているかどうかの回答については、資料No. 2の5ページに掲載している。なぜ不自由していないのかについては、特にその理由等を直接尋ねる項目がないため、明らかではない。</p>
関野委員	<p>自動車を運転する高齢者本人は絶対大丈夫と言っても、危険な運転は日常的に見られる。アンケート結果のみで判断をするのではなく、いかに免許を返納していただくかも検討した方が良いのではないかと。家族の送迎もマイカーを使用させず、環境のためにも公共交通の利用を促す方が良いのではないかと。</p>
瀬下会長	<p>意見として承った。</p>

(3) 実証実験について			
ア 火のアートフェスティバルにおいての次世代モビリティ乗車体験の結果について	勝亦委員	資料No. 3 について説明	
		<input type="checkbox"/> 質問・意見等なし	
イ eバイクレンタルサイクル事業の結果について	事務局	資料No. 4 について説明	
		<input type="checkbox"/> 質問・意見等なし	
ウ 今後の検討について	平林委員	「新システムの素案（暫定）について」について説明	
	事務局	資料No. 5 について説明	
		<input checked="" type="checkbox"/> 質疑応答・意見	
	清水副会長	デマンド交通が最有力となっているが、人手不足やコロナ禍の影響等の課題がある。実務担当者の意見を伺いたい。	
	猿谷委員	現状はコロナ禍前と比べ利用は減少している。現在は利用者が戻りつつあるものの、以前のようにならない状況でどうやって使ってもらうかを考えなければならないのではないか。	
	加藤委員	利用が増えない原因はコロナ禍の影響は当然あるが、運行ルートやエリアの問題、ドライバーやオペレーターへの対応等の問題もある。現状、運行時間は8:30から16:30までとなっているが、誰をターゲットにするかの部分でも検討が必要なのではないか。また、民間の企業の力を借りることも必要なのではないか。多様な方面から手を加えて利便性を増やしていきたい。	
	瀬下会長	では、AIによるシミュレーションを実証実験に追加したいという話があったが、承認いただくということでよいか。	
		<input type="checkbox"/> 一同反対意見なし	
	瀬下会長	スマホのアプリを使った実証実験だが、まだ実証実験の予算が残っているということで、場合によっては新たな実証実験の追加もあり得る。その場合は書面にて承認いただきたい。	
		<input type="checkbox"/> 一同反対意見なし	
	(4) 今後のスケジュールの変更について	事務局	資料No. 6 について説明
			<input type="checkbox"/> 質問・意見等なし
(5) 地区懇談会の開催について	事務局	日程等説明	
		<input checked="" type="checkbox"/> 質疑応答・意見	
	荻原委員	地区懇談会の日程については早めに調整をしていただきたい。	

4 その他	事務局	次回の協議会は来年3月の開催を予定している。配布した資料で質問等があれば事務局へ問い合わせいただきたい。
	花岡委員	市のWEBサイトに掲載されている定時定路線バス祢津線の時刻表が以前のものであるため、最新の情報に更新していただきたい。
	事務局	早急に対応する。
	関野委員	資料の量が多い場合は事前送付をしていただきたい。
	事務局	次回以降は事前に送付できるようにする。
5 閉会		